

# 「ウッドファーストな雄勝」の取組について ～身近な暮らしで木のぬくもりを～

秋田県雄勝地域振興局農林部森づくり推進課 副主幹 春日 勝年

## 1. はじめに

雄勝地域は県南内陸部に位置し、湯沢市・羽後町・東成瀬村の3市町村で構成され、総土地面積の80%を森林が占めており、豊かな森林資源に恵まれている。また、民有林のスギ人工林は、昭和40年代半ばから始まった造林運動により、10歳級をピークにその多くが利用期を迎えている。

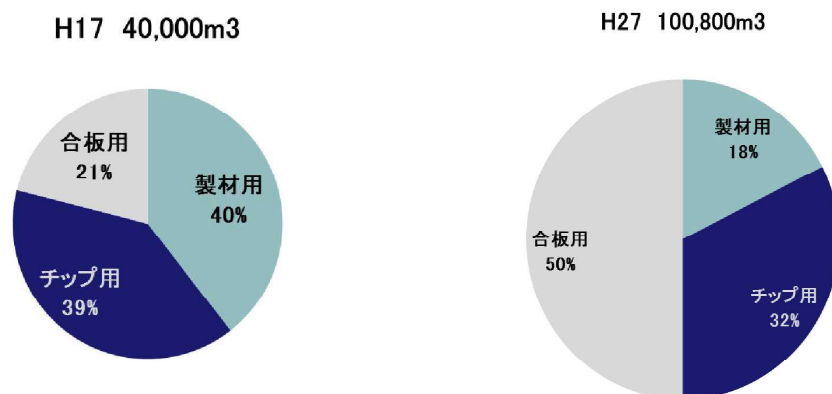
一方、林業は木材材価の低迷や林業労働者の高齢化など依然として厳しい状況にあるが、近年は高性能林業機械の導入や森林の施業集約化により、管内の素材生産量は10年間で2.5倍に増加した。

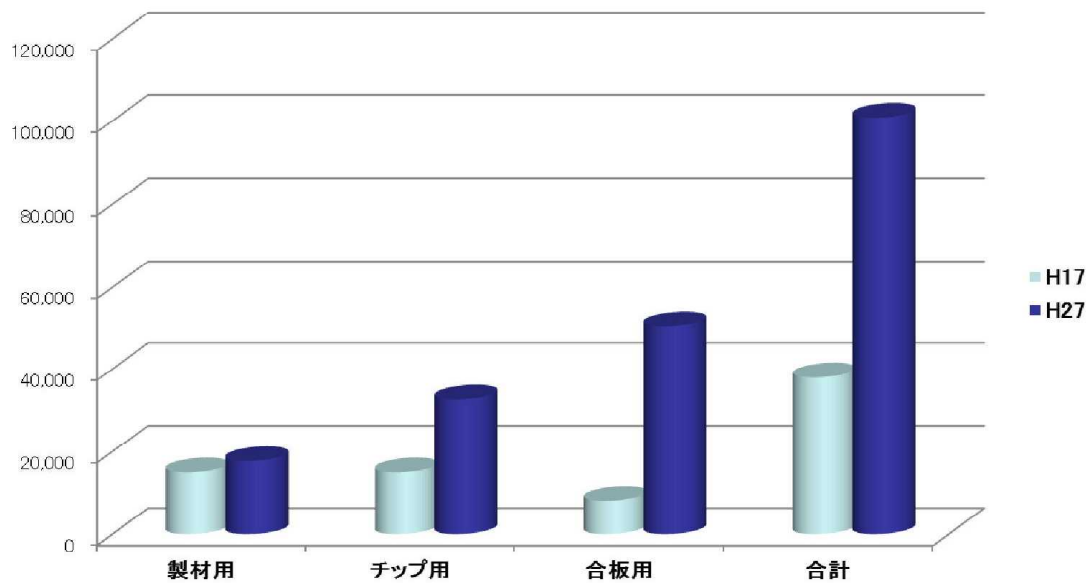
素材生産の内訳を見ると、合板用やチップ用（木質バイオマス利用など）は大幅に伸びたが、製材用は横ばいで推移し、この10年間で雄勝管内の素材生産を取り巻く状況は大きく変化している。（グラフ参照）

また、岩手県や山形県境に隣接しているため、隣県をはじめ秋田市周辺への原木（チップ含む）供給基地となっており、多くが原木（低価格）のまま流通していることから、付加価値のある製品供給体制の整備が地域の課題となっている。

このような状況に対応するため、地元の木を身近な暮らしでの利活用を進める「ウッドファーストな雄勝」の取組をはじめた。

### 【雄勝管内の素材生産の推移】





## 2. 研究方法（取組内容）

「ウッドファーストな雄勝」の取組は、国と民間が進める「ウッドファースト」＝”木材第一主義”を地域内で進める活動であり、身近な暮らしで木に触れる機会を増やす（提案）ことを目的に、様々なミッションに取り組んだ。

取組の内容は次のとおり

### ①雄勝地域振興局県民ホール内「ウッドファーストな雄勝 PR コーナー」

振興局県民ホールに、木製のテーブル・椅子・本棚等を設置し、ホール全体を展示場にした取組。(H27～) 驥:上段

### ②官公庁や図書館などを巡回する、出張！「どこでもウッドファーストな雄勝」

木製のテーブル・椅子・本棚・案内板等を制作し、官公庁や図書館・道の駅を巡回しながら、地域住民に木の良さを体感してもらう取組。(7箇所に出張) 驥:上段

### ③道の駅うご「羽縫いの郷」プロジェクト

道の駅直売所のラック・コンテナに地元間伐材を使ったプロジェクト。試作を繰り返し、約6ヶ月間に及ぶ取組。(H28.7.1 オープン:30セット) 驥:下段

### ④木製品の贈呈事業、森林組合と金融機関との連携

秋田市新庁舎オープンに合わせた、ベンチの寄贈。(H28.4.13:8基)

秋田市下新城北保育園への幼児用椅子の寄贈。(H28.10.8:30脚)

### ⑤普及啓発活動

埼玉県春日部市で開催、「桐のある暮らし展」でのPR活動。(H28.2) 驥:下段

2017 水と緑の森林祭での、「ウッドファーストな雄勝」の展示会。(H29.7) 驥:中段

地元小学校の親子木工教室。(H29.11) 驥:中段

### ⑥地元企業の取り組み

曲げ木家具や天然木のボールペンの紹介。



### 3. 結果及び考察（むすび）

平成27年から「ウッドファーストな雄勝」をコンセプトに様々な活動を展開してきた。

出張！「ウッドファーストな雄勝」では、行政機関を中心に図書館や道の駅などを移動しながら、展示・PRを実施した。これまで7箇所に出張し、多くの住民が木のぬくもりを体感した。

また、道の駅うご「羽縫いの郷」プロジェクトでは、製品の提案から実施まで6ヶ月間の長期に及んだ取組は、活動の最大の成果である。

これまでの様々なPR活動により、新たな製品の販売に繋がるなど、着実に木材の利活用が広がっている。

今後は、管内の木工会社や製材所と連携を図りながら「ウッドファーストな雄勝」の取組を積極的に展開し、地域林業の活性化に結びつけていく。